

Passport

女と男の豊かな生き方を探る情報紙

パスポート



INDEX

- すてきな生き方 創作家具作家 佐俣 敏郎 さん
- 特集 女性経営者の視点から見る 男女共同参画
博古堂代表取締役 井上蒲鉾店代表取締役
対談 後藤 圭子さん 牧田 知江子さん
- information 鎌倉市女性相談のご案内 ほか

Vol. 46

2015 鎌倉市



すてきな生き方

創作家具作家 さまた としろう 佐俣 敏郎 さん
(稲村ガ崎在住)

豊かな人間力…おもしろいこと、たのしいことを求め続けて



今から30年余り前、稲村ガ崎一いちのやとの谷に世界で初めて黄色いコスモスを開発した佐俣淑彦博士の森閑とした旧居が建て替えられました。やがて息子さんの敏郎・弥生さん夫妻が入居して創作家具「どんぐり工房」がオープンし、その頃からこの地域に

新風が吹き始めました。工房を訪れる人が増え、若い女性が男性に混じってトラックに乗り降りし、木材や家具を運んでいる仕事ぶりに、近所の人達は目を見張ったものです。ショールームに展示される木の持ち味を活かした大らかで温もりを感じる作品には、佐俣さんの人柄が表れていました。

佐俣さんは国際基督教大学を卒業後、写真家の助手をしながらネパール、アフガニスタン、ブータン、インドなどを放浪しました。ネパールとはトレッキング好きがこうじて何十年と交流が続いています。

佐俣さんの行動はまずおもしろそうだから、たのしそうだからと感ずることから始まります。次に、試してみようと、なんでも独学。家具作りも娘さんが生まれ必要に迫られたおもちや作りがきっかけでした。赤ちゃんの健康や情操にナチュラルなものをと自分で作るのは納得できます。

佐俣さんの家具作りコンセプトの共感者は、環境と健

康志向を求める女性達が大多数です。奥様が開いたアロマセラピーの教室とお店とのコラボも「鎌倉の山小屋」と総称し、各種の講座やイベントを発信。

この秋19回目となる極楽寺・稲村ガ崎アートフェスティバルも、佐俣さんがギャラリーの女性オーナー2人を誘って始めました。人気を呼んでいるのが佐俣さんお手製のネパール風カレーセット。30種類に及ぶ香辛料を煮込んだこのカレーを、佐俣さんが建てた山小屋風工房や、お母さまの丹精込めて咲かせた花壇(右上写真)を眺めながら、庭でいただけます。

七里ガ浜自治会有志が行っている七ヶ浜復興支援隊に当初から参加していることや、稲村ガ崎自治会活動の長年関わりの中で、最近では保存食に挑戦し、味噌や庭でとれたプラムのジャム、干し柿、しいたけ栽培、燻製などを手がけます。また、結婚以来のお餅つきには誰彼なく集まります。こうしたユニークな活力は、90歳のお母さまとお孫さんたちとの4世代が同居する賑やかな家庭にあるのでしょうか。



▲どんぐり工房店内



▲アートフェスティバルと、どんぐり工房のパンフレット



特集 女性経営者の視点から見る 男女共同参画

対談

(株)博古堂代表取締役

(株)井上蒲鉾店代表取締役

後藤 圭子さん

牧田 知江子さん



古都鎌倉には何代も続いている老舗がいくつもありますが、女性が経営者であることも少なくありません。どんな経緯で重責を担うことになったのか、苦労されたこと、男女共同参画に対する考えなど、伺いたいことはたくさんあります。そこで、鎌倉を代表する老舗店の経営者であるお二人に語っていただきました。



(左/後藤さん:G、右/牧田さん:M、パスポート編集員:P以下表記)

P お二人は鎌倉を代表する老舗店にお生まれになったわけですが、家業を継ごうという意志は小さい頃からあったのですか。

M 先輩！どうぞ！

G (笑)

P ?

M 圭子さんは清泉女学院中高の1年上の先輩なんです。直接の接点は無かったけれど存在は知っていたし素敵な方と思っていました。美術の方面に進まれたので、着々と準備なさっているんだなと思っていました。

G 美術大学に行ったのは家業を継ぐためというわけではなかったけれど、いつの間にか刷り込まれていたというか、いつか家業は継ぐのかな、という気はしていましたね。

M そうそう、継げと言われたことはないけれど、自然とそういう気にさせられていましたね。しっかりなさっている圭子さんと違って私はそんな気も無かったのだけれど、巧妙に敷かれたレールがありまして(笑) 私が大学を卒業する頃は男女雇用機会均等法もまだなくて、4年制大学卒の女子は就職先を探すのにとっても苦労していました。そんな時に、駅前にビルを建てて2階で蒲鉾が食べられるような店を作るから新しく会社を作れと言われて…飲食の仕事がしたかったから調理師

学校に行ったり、司法書士がやるようなことも全部自分でやって、就職というより新しい店を作るところが出发点でした。

P それではお仕事について時にはすでに責任者の立場だったのですか？

M 私は役員ですね。

G 私は平社員として入社しました。大学卒業の年に鎌倉彫資料館ができたので、まずそこで立ち上げに携わり学芸員を経て2年後に博古堂に入社しました。先輩の職人たちもたくさんいて、すごく緊張しました。

M 鎌倉の歴史そのもののお家ですものね！私もやりにくかったですよ。常務ではありましたが、年上の方たち相手に敬語を使って、お願いしてやっていただく、という感じ。それもまず自分が動かないとだめですね。実績の無い人間がいきなり上に立つからには、やるべきことをしっかりやらなくては。

G 社長に就くよりだいぶ前に実質的に引き継いだのですが、最初の頃は大変でした。自分がまずやるところを見せないと職人たちは受け入れてくれませんから、体力勝負のような仕事もやりましたよ。

M 私や圭子さんは女子校出身で、男女共学校なら男子がやるであろうことも女子がやってきたので、仕事の上で特に男女の区別を感じたことは無いかもしれません。

P 従業員の信頼を得るには、男でも女でもやるべきことは同じなのですね。男女共同参画推進の行政政策については、どのようにお考えですか？

M 核家族になって男は外で仕事、女は専業主婦という形が増えたのは戦後でしょう。江戸の庶民、特に商家の生活って、大家族で皆何かしらの役割があって、それをこなさないと、つまり男女共同参画をしないと商売や生活がまわっていかなかったのだと思うの。うちの場合はまさに自然と男女共同参画になっている感じ。価値観は色々あるから肩肘張らずに自然にやれることをやればいいのではないのでしょうか。専業主婦という選択もいいと思いますよ。



子どもたちに蒲鉾やお店の話をする牧田さん。
(小学校の総合学習の時間の風景)

- G** 今と昔は違うかもしれないけれど、男女それぞれ役割があって、女性なら女性にしかできないことに誇りを持っていたのではないかと思います。
- M** 選択ができる、多様性があることが大事じゃないかしらね。専門シェフは専業主婦かもしれないですよ(笑)
- P** 対外的にもご活躍のお二人ですが、女性ということで風当たりを感じることは？
- M** セクハラのようなことはやはりありましたよ。「お飾り」として呼ばれたなと感じたこともありました。
- P** 積極的に男女共同参画をと動かされたことはありますか？
- G** 男女というより、自分がやるべきことを充実させていけば周囲から認められるようになるのだと思います。
- M** 男性は既成の組織の中にいる人が多いせいか、個人で面白いことをやり始めているような人は女性が多くて、そういう人たちのネットワークが広がるというなとは思いますが。
- P** 圭子さんがデザインを担当されている「hakko」や井上蒲鉾のデリ&レストラン「惣INOUE」のような新しいブランドは、女性ならではの柔軟な発想や感性が活かされてるように思いますが、伝統的な職場での反発などはありませんか。
- G** 保守的な職人が多いですが、結果を出したら認めてくれるようになりますね。今は私の作るもの、経営をほぼ信頼してもらっていますが、ここに至るまでは、紆余曲折がありました。
- M** うちも圭子さんのところも伝統食材、伝統工芸をそのままやるだけでは生き残れないのですよ。「惣INOUE」は、毎日蒲鉾を食卓に上げていただくための「エントランス」としての新しい提案なのですが、その必要性を従業員の人たちに理解してもらわないといけないですね。
- G** ただ、確かにhakkoはデザインもシンプルだったり日常使える器が多かったり、女性ならではの発想の柔

軟さがあるこそかもしれませんが、一番やらなくてはいけないことは、博古堂として本来受け継いでいくべき鎌倉彫をきわめることだと思っています。

- M** その通りですね。うちもそう。伝統という守るべきものを守って次の世代に伝えるため、新しいことにチャレンジしているわけです。
- G** 鎌倉彫の場合は、伝統的な鎌倉彫を伝えると共に、今この時代の鎌倉彫、と言えるものを後世に遺したいと思っています。
- P** 伝統とチャレンジ、経営者として難しいことは色々ありそうですが、鎌倉の後進にアドバイスはありますか。
- M** 鎌倉はコンテンツがたくさんあるのがありがたいと思います。
- G** 大きさもちょうどいいサイズよね。
- M** 切り口はいっぱいあるから自信を持って進んだらいい、但し「鎌倉で」ということであつたら、僭越だけど、鎌倉の自然や歴史や文化を学んでほしいなと思いますね。その積み重ねがあつて今の鎌倉があるわけですから。
- P** 知江子さんは本業の他に町おこしなど様々な分野で活動されていますね。
- M** ミーハーなのよ。生涯^{いち}ミーハーです(笑)
- G** 筋の通ったミーハーね(笑)

... ..

静かに、でもしっかりとした口調でご自身に課せられた使命を語る後藤さん、「生活を大事に作る」とおっしゃる牧田さん、お二人からは女性だからという特別な気負いやストレスは感じられませんでした。むしろ女性だからこそその柔軟さで鎌倉の老舗という重責をしなやかに担っていらっしゃるのかもしれない。



▲後藤さんの作品

◀鎌倉彫のデザインをする後藤さん

(プロフィール)

- 後藤 圭子さん** : 東京芸術大学卒業後、株式会社博古堂入社、現在代表取締役。博古堂四代目、後藤家29代目当主。
- 牧田 知江子さん** : 昭和6年由比ガ浜に創業した井上蒲鉾店の三代目、早稲田大学卒業後入社、現在代表取締役。



神奈川県で、DVに悩む男性のための相談窓口が開設されました

神奈川県では、平成26年11月に「DVに悩む男性のための相談窓口」を開設しました。

「かっとなるとつい妻に手をあげてしまう」「妻から暴力を受けている」…

このような悩みを一人で抱え悩んでいる男性のために、専門相談員(男性)がお話を聞き、必要な助言や情報提供等を行います。被害、加害を問わず、DVにお悩みの男性はどなたでもご相談いただくことができます。

「DVに悩む男性のための相談窓口」

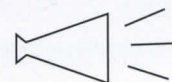
電話番号 **0570-783-744**
(なやみ なしよ)

毎週 月、木の18:00から21:00まで
(年未年始は休み)

相談無料(通話料は別にかかります。)
男性の精神保健福祉士が相談に応じます

Information

インフォメーション



ひとりで悩んでいませんか

鎌倉市女性相談のご案内



夫婦、家族関係、セクシュアル・ハラスメント、女性に対する暴力など、お気軽にご相談ください。専門の女性相談員が、問題解決に向けてあなたと一緒に考え、気持ちの整理のお手伝いをします。

相談は無料です。秘密は守ります。

【鎌倉市女性相談(電話・面接)】

☎ 0467(23)9311

月～金曜日(祝日・年未年始を除く)

10時～13時/14時～16時30分 面接は予約制です

募集!

あなたも「アンサンブル21」の活動に参加してみませんか!

アンサンブル21は、男女共同参画社会の実現のために、行政と市民がともに考え行動する組織として設置された市民ネットワークです。

アンサンブル21では、一緒に活動に参加していただける会員を募集中です。

活動内容

- ・フォーラムやセミナー等、啓発イベントの企画・開催
- ・情報紙「パスポート」の企画・取材・原稿作成

お問い合わせ: 鎌倉市文化人権推進課

☎ 0467(61)3870



カラダが動けばココロも変わる♪

癒しのリラクゼーションと楽しいフラを組み合わせたら心も身体も元気になる **リラクゼーション・フラ**を始めませんか?

日時: 毎月第3土曜日 10:00～11:40 a.m.

会場: 銀座一丁目京橋プラザ
～レッスンの後に銀座で食事やショッピングはいかがでしょう～

会費: 一回3000円 回数券・学割あり

講師: 水谷智美 フラ歴15年、産業カウンセラー・ストレスケア講師

連絡先 Tel: 090-4120-1106 E-mail: mizutani@enlightia.biz



男女共同参画情報紙「パスポート」に 広告を掲載しませんか?

広告掲載に関する問い合わせ先:
鎌倉市役所文化人権推進課
TEL0467-61-3870